





公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織  
 佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 115) uniwish42号  
 佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号 (2023年4月)  
 (電話・FAX) 0952-28-2077  
 (業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00  
 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp  
 ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>  
 Facebook <http://www.facebook.com/unicef.saga>

**助けたい！ ウクライナ・トルコ・シリアの子どもたちを！**

紛争や自然災害などで子どもたちが命の危機にさらされています。



**ウクライナ緊急募金**  
 危機の発生から1年。  
 ウクライナの子どもたちは今も苦しみの中にいます。

© UNICEFUN0727814Reklajtis



**自然災害緊急募金**  
**トルコ・シリア国境で大地震**  
 何百万人もの子どもたちが  
 緊急支援を必要としています

© UNICEF/UN0777983/al Sayed/AFP

**◆780万人の子ども達が...戦争の影響**

2022年2月24日にウクライナでの戦闘が激化して以来、多くの子どもたちが故郷や友だち、愛する人たちから引き離されています。子どもたちは暴力や破壊行為を目のあたりにし、計り知れないトラウマを負っています。今日までに**438人の子どもが犠牲**になり、**838人が負傷**したと報告されていますが、実際の数はこれを大きく上回ると考えられます。数千もの**学校と782の医療施設**が損害を受けたり、破壊されたりしています。子どもが必要とする教育や保健サービスの利用が大幅に制限され、子どもたちを危機的状況に陥れています。

地震で倒壊した建物の瓦礫から小さな子どもを救助する地域住民たち。(2023年2月6日撮影、シリア北西部)

2023年2月6日、トルコ・シリア国境付近で大地震が発生し、子どもたちと家族が危機下に置かれています。この2カ国で約50,000人の死亡が確認され、またトルコで460万人の子どもが、シリアでは250万人の子どもが、今回の地震で被災しています(2023年2月22日時点)。

**(ユニセフ支援活動 1年報告書から)**

**『ウクライナ支援1年報告書』**



分野	活動内容	ウクライナ国内 (人)	難民支援国 (人)
保健・栄養	ユニセフが支援する施設で、プライマリ・ヘルスケアのサービスを利用することができた子どもと女性の数	4,937,295	473,563
子どもの保護	メンタルヘルスや心理社会的支援を受けることができた子どもと保護者の数	3,355,403	1,248,025
教育	就学前教育を含む、基礎教育を受けることができた子どもの数	1,458,203	1,058,230
水と衛生	飲料水や生活必需品のために十分な量の安全な水を利用することができる人々	5,574,624	115,544
社会的保護	ユニセフによる人道支援の一環としての、多目的な現金給付を受けた世帯の数	224,303 世帯	53,679 世帯



# 新たに「こども家庭庁」発足し、「こども基本法」が施行。 日本ユニセフ協会は、こどもの権利の実現に向けて歓迎



2023年4月1日、「こども家庭庁」が発足し、「こども基本法」が施行されました。

## ◆子どもの権利の実現にとともに取り組む

【2023年4月7日東京発】

子どもの権利の実現にとともに取り組むユニセフおよび日本ユニセフ協会は、子どもの権利条約に則り、すべての子どもの命と権利が守られる世界をめざして活動しています。

日本ユニセフ協会会長の赤松良子は、「子どもの権利条約の精神に則るこども基本法の施行、そして『こどもまんなか社会』の実現をめざし、子どもの意見を聴き、子どもの最善の利益を考え、子どもの権利を守ることを謳うこども家庭庁の誕生は、私たちユニセフにとって大変心強く、喜ばしいことです。日本のすべての子どもの権利が守られるよう、とともに取り組んでいきたいと思っております」と述べています。

## ◆1989年11月20日に採択された「子どもの権利条約」は、世界中すべての子どもたちがもつ権利を定めた条約です。



「子どもの権利条約」は、子ども（18歳未満の人）が権利をもつ主体であることを明確に示しました。子どもがおとなと同じように、ひとりの人間としてもつ様々な権利を認めるとともに、成長の過程にあって保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定めています。

## アドボカシー：2022年の成果

- こども基本法・こども家庭庁の誕生を後押し
  - \* 議員への働きかけ等
  - \* こども家庭庁準備室との連携
  - \* ラッセル事務局長の歓迎メッセージを野田聖子こども政策担当大臣に高須副会長より手渡し



## ■レポートカード16 (2020作成)

- \* 日本の子どもの精神的幸福度の低さや子どもの声を聴くことの重要性
- \* 国会審議で何度も取り上げられ、こども基本法・こども家庭庁設置法の議論に影響
- \* 分析枠組みは政府文書に取り入れられる見込み



## ◆2023年予定されている「子どもの権利」の広報

2023年がこども基本法の施行とこども家庭庁の発足という歴史的なタイミングにあたることもあり、NHK・セサミストリートとEテレ番組「みんなのfor every child! (仮題)」を共同制作。4月から12月にかけて、年24本放送予定（11月は世界子どもの日スペシャル）。



	主人公1S	わんわん 「いつも元気なわんわんでーす!」
	ワイフに エルモ& ジュリア	クッキー 「おー! わんわんだ!」
	おしえて キミの For every child	

Eテレ 土曜 17:24~17:25 予定

この番組だけに留まらず、子ども自身をはじめとする広く一般の方に、ハードルの低い方法で、子どもの権利について考える様々な機会を設ける予定。

SDGsの目標の達成がどんな子どもの権利の実現と結びつくか考えてみよう。



43-54  
最終の心

# 子どもの権利条約



# こども・若者の意見を政策に反映、日本ユニセフ協会も 仕組みづくりに協力

子どもたちの声を聞きたい  
子どもにやさしいまちづくり  
を進めたい

## ★こども・若者の意見を政策に反映 ～協会も仕組みづくりに協力～

こども・若者の意見を  
聴きます！  
その声で社会を  
つくっていきます



(ロゴマークは、こども家庭庁HPより引用)

日本ユニセフ協会は、こども家庭庁の発足に先立ち、先月24日に発表された、子ども・若者の意見を政策に反映するための仕組み、**「こども若者★いけんぷらす」**が作られる過程にも関わっています。

昨年9月、「こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する検討委員会」において、ユニセフ本部や他のユニセフ国内委員会の協力を得て、先進国で子ども・若者の意見を政策に反映させる常設の仕組みがある国の事例を紹介しました。これらの事例はその後詳細に調査され、今回の仕組み作りに役立てられました。

## 佐賀でも 11/12 (日) ユニセフ「子どもサミット」を開催予定

### ユニセフ「子どもサミット」in 佐賀(案)

～持続可能な子どもにやさしいまちづくり～

日時 2023年11月12日(日) 9:00～12:00

場所 メートプラザ佐賀 多目的ホール

佐賀県ユニセフ協会は、お陰様で佐賀市で活動をはじめて来年で30年になります。

ユニセフは、「みんなが幸せになれるまち」をつくるために、「子どもにやさしいまちづくり事業(CFCD)」を推進しています。

当協会でも、佐賀市が子どものふるさとであるために、子どもたちとともに『子どもにやさしいまちづくり』を始めたいと考えています。子どもにやさしいまちは誰にでも優しい未来に続くまちです。

この活動の一環として、中高生の意見を取りまとめ「子どもにやさしいまちづくり」を佐賀市に提言するための「子どもサミット」を開催いたします。

サミットでは、中学生・高校生自身が身近な問題として“わたしたちのまち”への思いを伝え、「持続可能な子どもにやさしいまち」について自由に意見を交換します。

そして、これらの意見をまとめて、11月20日(月)「世界こどもの日」に中高生の代表が、佐賀市へ政策提言をすることを計画しています。

中高生の参加と活発な意見を期待しています。

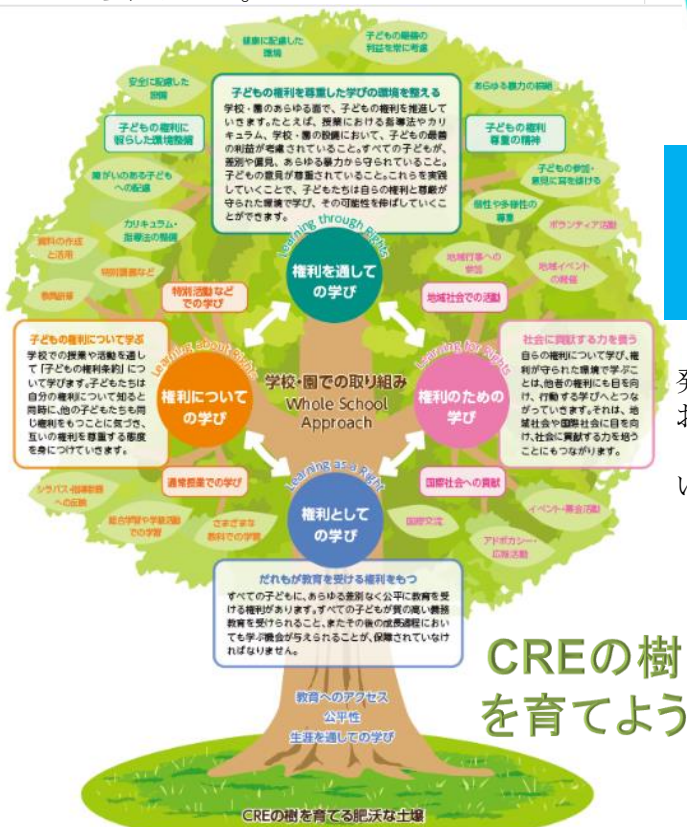
- ＊コーディネーター ( )
- ＊サミット参加者 佐賀市立中学校  
佐賀市内の佐賀県立中学・高等学校  
佐賀市内の私立中学・高等学校  
各学校 生徒2名

＊ファシリテーター 大学生10人ほど

主催：佐賀県ユニセフ協会

## 学校現場にCRE教育を広めたい！ Child Rights Education (CRE) 子どもの権利を大切にする教育

子どもたちが1日の多くの時間を過ごし学力だけでなく、心身の発達のためにも重要な役割を担う学校・園。ユニセフは教育現場における子どもの権利の推進を目指し、世界各国で「Child Rights Education (CRE) 子どもの権利を大切にする教育」を提唱しています。





## 2022年度 日本ユニセフ協会の収支概要をご報告いたします。

2022年、武力紛争や自然災害、異常気象を含む気候危機によって、世界各地で多くの子どもたちと家族が危機にさらされ、人道支援を切実に必要としました。特に、2月に戦闘が激化したウクライナでは、平和な日常を突然奪われた多くの子どもたちが、自宅を追われて危険にさらされ、難民・国内避難民としての生活を強いられました。世界有数の穀倉地帯であるウクライナ危機は、さらに世界規模での食糧不安を引き起こし、特にアフリカにおける子どもの栄養危機が深刻化しました。

また、紛争が長期化しているシリアやイエメン、世界最悪の人道危機のひとつであるアフガニスタン、大規模な洪水・地滑りが発生したパキスタン、深刻な干ばつが広がるアフリカ角地域など、緊急事態下にある国々において、弱い立場に置かれた子どもたちの命と健康、権利が脅かされました。

そのような状況下、最も困難な状況にいる子どもを最優先に、すべての子どもたちへの支援に取り組むユニセフの活動を支えるため、日本ユニセフ協会は日本国内で、募金・広報・アドボカシー（政策提言）活動を展開しました。

どのような危機にあっても、その影響をもっとも受けやすいのは子どもたちです。ユニセフと日本ユニセフ協会は、誰ひとり取り残されることなく、世界のすべての子どもが健やかに成長し、自らの持つ可能性を最大限に発揮できる世界を目指し、活動を続けています。世界の子どもたちのための活動を支えてくださる日本の皆さまの寛大なご支援に、改めまして心より御礼を申し上げます。

日本の皆様からお預かりした募金の総額は、前年を大きく上回る**333億8,140万2,754円**にのびりました。そのうち、97億2,509万円がウクライナ緊急支援に寄せられました。**お預かりしたユニセフ募金の約87%はユニセフ本部に拠出し**、ユニセフが世界150以上の国と地域で展開する子どもたちのための支援プログラムの実施、および、災害や人道危機下における緊急支援活動などに活用されます。**また約13%は、ユニセフ本部との協力協定に基づき、ユニセフの活動を支えるために日本ユニセフ協会が国内で行う、募金・広報・アドボカシー（政策提言）活動などに充てられました。**

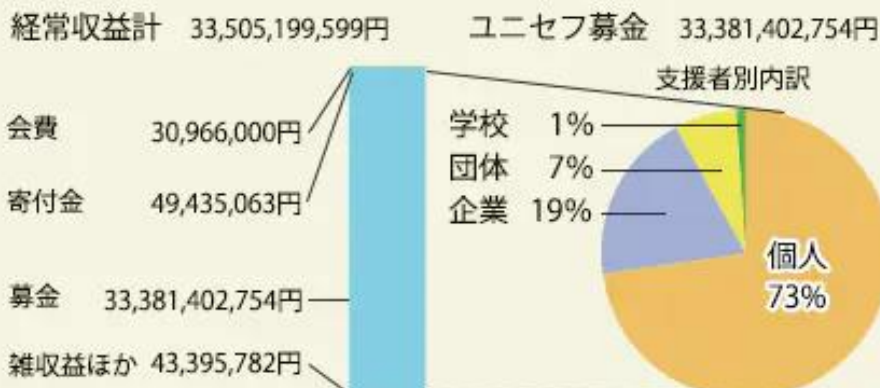
### <収入の部>

2022年度、みなさまのあたたかいご支援により、日本ユニセフ協会にお寄せいただいたご寄付は、**前年を大きく上回る333億8,140万2,754円**となりました。

そのうち**97億2,509万円が、ウクライナ緊急募金**に寄せられました。全体のうち、個人によるご寄付が73%、企業・団体・学校からのご寄付が合わせて27%を占めました。

募金に加え、会費、寄付金、雑収益ほかすべての**経常収益計は、335億519万9,599円**となりました。

### 日本ユニセフ協会の収入内訳（2022年 公益目的事業会計）

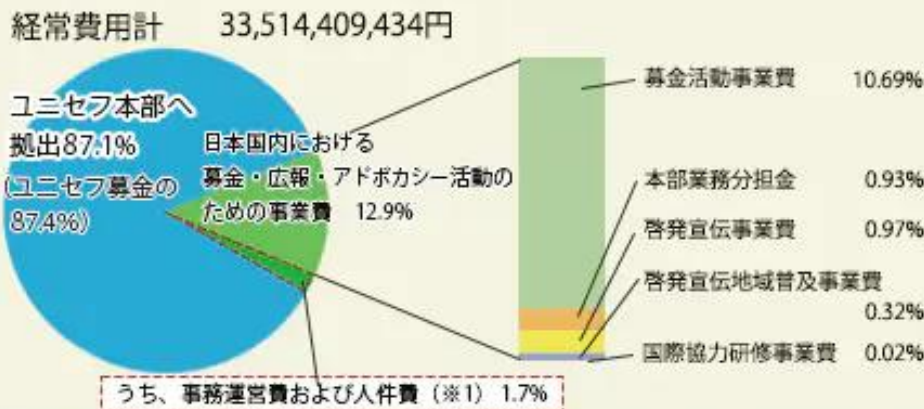


### <支出の部>

2022年、当協会は、**291億7,829万1,273円をユニセフ本部に拠出**しました。これは、経常費用計335億1,440万9,434円の87.1%

(みなさまからお寄せいただいた募金**333億8,140万2,754円**の87.4%\*)にあたります。経常費用計の**12.9%は、ユニセフ本部との協力協定に基づき、ユニセフ支援の輪を広げるための、国内での募金活動（領収書/寄付控除申請書類の印刷・発送費や振込/決済に係る費用などを含む）、広報・アドボカシー活動、国際協力に携わる人材の育成活動**などに充てさせていただきました。そのうち、事務運営費および人件費は1.7%です。

### 日本ユニセフ協会の支出内訳（2022年 公益目的事業会計）



※1 新公益法人会計基準に則り、公益目的事業会計の各事業費に配賦されている、事務運営費（正味財産増減計算書の光熱水費、火災保険料、施設管理料、建物減価償却費、什器備品など減価償却費）及び人件費（給料・報酬、福利厚生費、退職給付費用、賞与引当金繰入額）。詳しくは正味財産増減計算書をご覧ください。



# 2022年度佐賀県ユニセフ協会の活動の実績

## 募金活動



● 2022年度 佐賀県ユニセフ協会を通して本部へ送金された年間募金総額は、  
**¥ 10,244,418 円** でした。(uniwish NO41号で報告 済)

● 2023年1月31日、本部からの2022年度の募金総額の最終報告が届きました。  
 日本ユニセフ協会を通してまっすぐユニセフ佐賀県口座K1-410に送金いただいた  
 佐賀新聞社善意銀行様などの分を合わせると、**2022年度最終の年間募金総額は、  
 ¥17,848,732円**となりました。ご支援に感謝します。(uniwish NO42号で最終報告)

## 広報活動 ユニセフ教室など

### ★出前授業・講話を通して世界の子どもの現状やユニセフの仕事などを広報

講師派遣 (回)						協定地域組織への訪問 (回)					イベント	合計
校種	小学校	中学校	高校	一般	小計	小学校	中学校	高校	一般	小計		
回数	13	5	3	7	28回	2	2	4	3	11回	14	53回
人数	722人	485人	43人	201人	1451	3人	11人	18人	9人	41人	1953人	3445人

\*募金贈呈式での講話などを含む(ミニ研修12回)。大学生は一般に含む。

\*事務所訪問は、調べ学習・活動前の事前学習・情報収集・活動相談等を含む。

\*イベントは、ユニセフシアター、SDG s 絵画展、SAGA国際フェア、ハンドインハンド募金活動など



★7/20 東川登小学校「平和学習」



★5/13佐賀県立伊万里実業高等学校(ミニ研修)



★10/14 アクティブ・ラーナー育成プログラム研修会



佐賀県ユニセフ協会では、県内でのユニセフ支援の輪を広げていくために、ユニセフの賛助会員になって支援して下さる方を募集しています。

◆ 佐賀県登録の賛助会員様は、佐賀県ユニセフ協会の運営を支える大きな柱です。  
 近年、賛助会員の高齢による退会などの連絡が入るようになってきて、徐々に会員数が減少しています。  
**賛助会員会費の50%が佐賀県ユニセフ協会の運営仮受金となります。**今後も賛助会員拡大のために  
 様々な形で広報をしていきたいと思ひます。

◆ 以下の4つの団体・企業様は、佐賀県を通して日本ユニセフ協会に登録をいただいている  
**団体賛助会員(1口 100,000円)**様です。  
 (会費の半額が佐賀県ユニセフ協会の活動支援費になります。)

(医)智仁会 佐賀リハビリテーション病院 様	(有)吉原医設 様
峰公認会計士・税理士事務所 様	(株)木村情報技術 様

◆ 以下は、佐賀県で登録をいただいている **一般賛助会員(1口5,000円)**様と  
**学生賛助会員(1口2,000円)**様の数です。

一般賛助会員 様	142名
学生賛助会員 様	21名







○ 1月8日(日) 長崎県にて『開運フェスタ』イベント参加  
イベント会場でユニセフ広報活動と募金活動  
10:00~17:00 <長崎新聞社 1階フロアにて>

★広報内容⇒<2022年の募金活動のテーマ>  
『最も厳しい状況にある子どもたちの願いをかなえよう  
～生きたい! 食べたい! 学びたい!～』



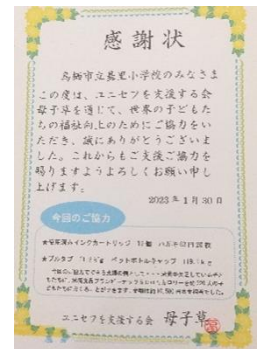
○ 1月26日 (木) 『佐賀県南部地区郵便局長会』様が、使用済切手19kgを  
「ユニセフを支える会 母子草」に贈呈。  
13:30~14:00 <佐賀県ユニセフ協会事務所>



○ 1月 30日 (月) ◆基里小学校児童様と基里まちづくり推進協議会様が、  
「ユニセフを支える会 母子草」にリサイクルの品を寄贈  
<鳥栖市立基里小学校>

- \*書き損じはがき40枚、
- \*ペットボトルキャップ119kg、
- \*プルタブ11kg、
- \*使用済インクカートリッジ19個。

➡ (10,500円に相当)



○ 2月 24日 (金) 佐賀県立ろう学校中学生 4人 事務所訪問  
9:00~10:00 (引率の先生 4人)

《内容》★使用済み切手及び使用済みインクカートリッジの贈呈  
使用済切手 450グラム インクカートリッジ370個  
★ユニセフ学習 『世界の子どもたちとユニセフ』の視聴  
《中学生の質問に回答する形でプレゼンを作成》



○ 3月 10日 (金) 小城市立晴田小学校募金贈呈 & ユニセフ教室  
14:05~14:55 (4年生 2クラス 50人)

《募金贈呈主旨》  
『小城市には虫が飛び交うきれいな川があります。  
アフリカの子どもたちにもきれいな水を贈りたい。  
井戸を掘る(1基:14000円)ための募金を放送で  
全校児童に呼び掛けました。』



14000円でできごと	
アランピーチン 33円	
424:	
0RS 8円	
1750:	
3500人	
1794円	
毛布 1セット(10枚) 6700円	
20枚	
芽茶割 420ml/1000	
33000:	



○ 3月 14日 (金) 佐賀県立盲学校から事務所訪問  
★使用済み切手及びインクカートリッジや書き損じはがきの贈呈  
★使用済切手の整理をしよう (体験学習)  
★ユニセフ学習 『世界の子どもたちとユニセフ』



○ 3月15日 (水) J A佐賀県女性組織協議会様より「愛の募金」贈呈 12:00

\*前日にはJA佐賀県各女性地域から  
書き損じはがき、使用済切手やインクカートリッジも寄贈  
<佐賀県 J A会館>

- \*書き損じはがき 2124枚、
- \*使用済切手 14 kg、
- \*インクカートリッジ 4675個、トナー85本



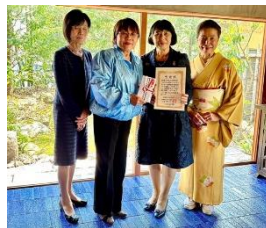
○ 3月16日 (木) 唐津市立肥前中学校 ユニセフ募金贈呈  
\*生徒会代表の皆さん4人 13:00  
\*ミニ研修 <肥前中学校 校長室>





- 3月29日(水) 「国際ソロプチミスト佐賀様」が「ウクライナ緊急支援」として主催されたコンサートの収益金を佐賀県ユニセフ協会へ¥103,891円を寄贈されました。

<あけぼの旅館>



- 4月17日(月) イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」ギフトカード贈呈式
  - ★時間: 11:00~11:30
  - ★会場: イオン佐賀大和店1階 催事場
  - ★支援ギフトカード: ¥43,400円分をいただきました。



## 4/15(土)サガン鳥栖試合会場での「募金活動」及び「パネル展示」



サガン鳥栖  
マスコットキャラクター

★募金額  
¥108,120円

- ★日時: 4月15日(土) 13:30~14:30 募金活動 (サガン鳥栖 VS 柏レイソル試合前)
- ★会場: 駅前不動産スタジアム
- ★内容: (募金活動テーマ) **「助けたい ウクライナ・トルコ・シリアの子どもたちを！」**  
(パネル展示) 「長谷部誠親善大使のロヒンギャ難民キャンプ訪問」  
「ウクライナの緊急支援」のパネル、「トルコ・シリア人道支援」のパネル

佐賀県ユニセフ協会は(株)サガン・ドリームス様のご協力で、今年4年ぶりにサガン鳥栖試合会場の駅前不動産スタジアムで募金活動をすることができました。試合当日は雨模様にも関わらず、スタジオに多くのサッカーファンが詰めかけ、思い思いのサガン鳥栖応援グッズでサッカーの応援にも熱気が感じられました。

募金活動は、学生ボランティアとして鳥栖の日本語学校弘堂国際学園の留学生の皆さん19人とユニセフスタッフ8人の総勢27人で実施しました。留学生の皆さんは、ネパール、ベトナム、ミャンマー、スリランカから日本に勉強に来られていて、日本語も上手で「ウクライナの子どもたちのために募金をお願いします」と大きな声で呼びかけてくれました。そのおかげで、1時間15分ぐらいの短い時間でしたが、『観客皆さんの優しさが詰まった募金』が多く集まりました。



(募金活動の様子)



(募金活動集合写真)⇒

**助けたい ウクライナ・トルコ・シリアの子どもたちを！**



ご支援  
ありがとうございます

国際ソロプチミスト佐賀様、コープさが生活協同組合様、JA佐賀女性組織委員会様、佐賀リハビリテーション病院様、南川副自治会様、肥前中学校生徒会様、晴田小学校様、国分団地資源物回収協力会様、母子草様、平尾建設コンサルタント事務所様、TSUTAYA鍋島店様、ジョギングクラブ様、

第一生命労働組合佐賀支部様、西村会計様、コープさが新栄店様、池田内科・皮膚科様、小城ゆめプラット様、鳥栖市民生活センター様、大塚製薬K・K様、久保田鮮魚店様、佐賀県南部地区郵便局長会様、基里小学校様、基里まちづくり協議会様、佐賀市立図書館様、佐賀大学友朋会様、明治安田生命保険相互会社様、国際ソロプチミスト佐賀西部様、杉の子文庫様、佐賀県国際交流協会様、佐賀県立ろう学校様、佐賀新聞社秘書室様、佐賀市国際交流協会様、佐賀県立盲学校様、田中電子工業様、佐賀県商工会連合会女子部様、佐賀県高等学校家庭科クラブ連盟様、西九州ニチレキ株式会社様、(株)回生薬局本店様、佐賀県婦人地域連絡協議会様、

(順不同: 2023年1月8日~2023年4月29日)

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。  
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきました。





# unwish の仲間たち!

## 「コープさが新栄店」 副店長 竹下和樹さん —佐賀市—



HPより  
コープさが新栄店

### 【コープさが新栄店の概要】

コープさが新栄店は2012年に、佐賀市西部に開店しました。コープさが生協系列の鳥栖店や佐賀南部店などが閉店し、現在は、新栄店と大町店が営業をしています。佐賀市西部地区の買い物の拠点として生協の組合員さんはもちろん、地域住民の皆様にも立ち寄って喜んで買物をしていただきたく、コープ商品やより良い商品の品ぞろえに努めています。店内には、「セリア」や「COLORS」なども入り、敷地内には、「サンドラック」や「パンの店」「ジャルマン」などもあり、お客様のニーズに応えられるように努めています。

使用済インクカートリッジや切手等を店舗で回収して下さるコープ新栄店の竹下副店長さん(右)一高さん(左)

## "SDGsに取り組む新栄店"

コープさが新栄店では、開店当初からSDGsにも取り組んでいます。店舗屋上には環境にやさしい「太陽光発電システム」を設置し、現在の発電量などを知らせています。

また、様々なリサイクルに向けて使用済みインクカートリッジや切手、ペットボトル回収やトレー回収などにも積極的に取り組んであります。

コープ商品についても、健康や安心・安全に配慮した品ぞろえに気を配られています。



(店舗屋上には太陽光システム設置)



(店舗においてあるリサイクル回収箱)

使用済み切手とインクカートリッジ

## "新栄店で広がるユニセフ募金活動"



【2019.12.11 ユニセフ募金活動】

前コープさが桑原廣子会長と佐賀北高等学校のボランティア部の皆さんによる募金活動に、飛び入りで野球部の友達も友情参加をしてくれました。



(佐賀北高等学校新体操部の皆さん)

### 【2022.12.12 ユニセフハンドインハンド募金活動】

かわいい子どもさんも募金をしてくれました。車の窓を開けて募金をしてくださる方もいらして、生徒さん達は、カッコいい! 私もあのような大人になりたい! と感激をしていました。

### 《竹下副店長様からのコメント》

★地域の皆様のお役に立てるように日々努力をしています。当店でお買い物をしてもらうことで、喜んでもらい次へのご来店につなげたいという気持ちで毎日楽しく仕事をしています。私自身は募金活動などはしたことがないのですが、新栄店の前で募金活動をする学生さんたちを見て、自分でも何かの形で協力したり、自分の子どもに大切なことを伝えたいと思います。

(原稿提供: 副店長 竹下和樹さん 取材: 江島きよ子)